

日本民俗舞踊の地域伝承について —ある地域の盆踊りの現状に視点をおいて—

岡山県立大学 本羽恵子

1. はじめに

岡山県立大学で日本民俗舞踊の指導を始めて7年になる。授業は日本民俗舞踊研究会や地元の方から習得した岩手の『黒川さんさ』を軸に、オリジナルな民俗舞踊エクササイズをつくり、身体を探りながら学生達に民俗舞踊の楽しさを伝えるよう努力している。

4年前より地元岡山の踊りも授業に取り入れようと、県内3大盆踊りの一つ『松山踊り』を題材に選んだ。理由は、大学から近く振りもやさしく一般参加できるからである。しかし近年イベント化され、調査した時もかなり踊りの型が乱れ、どの踊りが本当なのかわからない。各地の良い踊りを見慣れてきた私は落胆していたが、一人の女性(Sさん)を発見。スカウトして教えを請い、後に私の授業の特別講師になっていただいた。(彼女は亡くなった父親から非常に厳しく踊りを叩き込まれ、結婚のため地元を離れたが盆には必ず帰省して踊るといふ。)

こうして毎年夏には『松山踊り』を踊ることになった。学生達の励みになればとのSさんの勧めで、3年前より“岡山県大連”として盆踊りコンテストに有志が参加している。今年は思いがけず準優勝に輝き地元の新聞にも掲載された。嬉しい反面、地元以外のずぶの素人がたった4～5回の練習で賞を頂くという複雑な疑問も湧いた。あくまでも今の踊りとは違う、彼女が、昔習った踊り方に私がこだわった結果なのならば、この踊りに出会ってから長い間抱いてきた思いを、今こそ明らかにする決意をした。

2. 松山踊り

松山踊りは①地踊りと②仕組み踊りの二つの異なった風流からなり、地踊りは一般町民の間に生まれ、仕組み踊りは武士階級の間に起こった。その他近世になって③やとさ踊りという踊りが入ってきた。現在はこの踊りが一番人気である。

①地踊り…今から352年前の慶安元年(1648)備中松山城主(現在の高梁市)水谷勝隆が年に一度の民衆娯楽として始めた踊り。輪形式。

②仕組み踊り…延享元年(1744)板倉勝澄が武士の師弟らに勧めた武家の踊り。一定の型や歌もなく舞踊劇のようなもの。後に明治より町民に移り、町内会でも出し物を競い合っていた。昭和10年頃までは盛んであったが、以後衰退。一昨年復活。

③やとさ踊り…1960年頃、高梁の盆踊り大会に近郊から出演したテンポの速い踊りが地元の人気をさらい以後踊りに加わる。

3. 松山踊りの現状

毎年8月14日～16日(PM7～10)JR高梁駅前の踊り場を中心に盛大に行われる。今年は延べ11万人の人出で賑わった。10年ほど前から踊りコンテストをしており、職域・一般・町内会な

どの40ほどの連が踊りを競う。①地踊りよりも③やとさ踊りに人気があり、コスチュームも踊り方も様々である。②仕組み踊りは一昨年復活したと地元の人々は言うが、全くの剣舞であり昔の型はとうてい見ることはできない。①③は踊り場のまん中に櫓をしつらえ太鼓と三味線の囃子をバックに音頭取りが唄う。

昨年、社団法人観光協会がで、今年から積極的な活動をを行っている。

*踊りフレンズ結成…一般公募によりマスコットガール・キャラバン隊を募る。一般7名・大学生10名(うち男性4名)婦人会から10回ほどの指導を受け、PRのためテレビ出演や近隣の祭りに赴く。

*特設舞台を設けその上で踊る(仕組み踊りも)

*八尾の『越中おわり』視察に行く など。

4. 松山踊りの昔・今(地踊りについて)

昔(昭和初期～昭和40年頃) —Kさん(73歳)に取材—

*女性も男性も腰を落として体を沈めて踊った。腰を低くし、右左の足の交差は腰を緩にして踊った。胸から手をさげることはなかった。

*曲はかなりゆっくりしていた。音頭とりは酒樽の上でゲタで拍子を取りながら唄っており、他の鳴り物はなかった。戦後いつのまにか鳴り物が入ってきた。

*昭和20年前後までは女性が男装したり男性が女装したり変装しておもしろおかしく踊っていた。

*今の踊りは変わってしまって踊る気がしない。

今(昭和40年頃～現在) —Iさんに取材—

*ちゃんとした保存会がなく、昭和37年の岡山国体以後、婦人会の方で踊りの会を作った。昔に比べて、マスメディア化し踊りを揃えるようになった。今は民謡踊りの先生が教えている。皆にわかりやすくするために、手を下から月をみるようにかざしてとか浮き浮きと歩くとかの指導になっている。

*自分も昔の踊り方と違うので、戸惑いながら皆にあわせている。悩むがどうしようもない。

5. むすび

松山踊りはもともと宗教性が薄く娯楽性に富み民衆に親しまれる踊りである。時代が激しく変わり盆踊りの衰退は踊りを育む地域社会の民衆の支持によって左右される。皆か喜び町も栄え、明日の活力を生むのであれば、これはこれで世の中の流れと言わざるをえないのかもしれないが、せつかく伝承された踊りがあるのに……勿体ないと思う。

行政が、いわゆる商業ベースの観光化をすすめるのは、わからないではないが、もっと慎重に今までその祭りに携わった多くの地元の人々の声も聞いてほしいと思う。また安易に民謡踊りや日本舞踊や剣舞の先生にまかせればよい、という考えもどうであろうか。

地元の方々にこのことへの気付きが生まれ、今の踊りはそれとして、伝承舞踊として誇りをもった取り組みが始まることを願ってやまない。

全国的に、時代とともにこういう流れは少なくないであろう。いわゆる、私を含めたこうした民俗舞踊の研究と行政の認識が、今こそ急務であるように思う。

(参考文献) 三室清子「盆踊りの研究—松山踊り1979」